

## 平成24年12月定例会会議録（第3号）

平成24年12月10日 月曜日 午前10時00分開議

蒲 生 光 男 議 長                      安 部                      隆 副議長

### 出 席 議 員 （ 1 5 名 ）

1 番	赤 間 泰 広	議 員	2 番	梅 津 善 之	議 員
3 番	江 口 忠 博	議 員	4 番	今 泉 春 江	議 員
5 番	小 関 秀 一	議 員	7 番	我 妻 昇	議 員
8 番	大 道 寺 信	議 員	9 番	町 田 義 昭	議 員
1 0 番	佐 々 木 謙 二	議 員	1 1 番	安 部 隆	議 員
1 2 番	渋 谷 佐 輔	議 員	1 3 番	高 橋 孝 夫	議 員
1 4 番	大 沼 久	議 員	1 5 番	小 関 勝 助	議 員
1 6 番	蒲 生 光 男	議 員			

### 欠 席 議 員 （ 1 名 ）

6 番 竹 田 博 一 議 員

### 説 明 の た め 出 席 し た 者

内 谷 重 治	市 長	新 野 潔	副 市 長
飯 澤 常 雄	総 務 課 長	平 英 一	財 政 課 長
遠 藤 健 司	企 画 調 整 課 長	青 木 邦 彦	税 務 課 長
鈴 木 良 輔	市 民 窓 口 主 幹	松 木 幸 嗣	健 康 課 長
小 泉 良 一	福 祉 生 活 あ ん し ん 課 長	種 村 正 一	子 育 て 支 援 課 長
遠 藤 正 明	会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	堀 越 俊 一 郎	監 査 委 員
加 藤 弘 二	教 育 委 員 長	加 藤 芳 秀	教 育 長
遠 藤 誠 一	選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長	鈴 木 榮 一	農 業 委 員 会 会 長
那 須 宗 一	農 林 課 長	中 井 晃	商 工 振 興 課 長
平 正 行	観 光 振 興 課 長	渡 部 政 明	建 設 課 長
浅 野 敏 明	ま ち ・ 住 ま い 整 備 課 長	鈴 木 要 一 郎	上 下 水 道 課 長
鈴 木 一 則	管 理 課 長	齋 藤 理 喜 夫	文 化 生 涯 学 習 課 長
佐 藤 孝 博	生 涯 ス ポ ー ツ 課 長	齋 藤 環 樹	学 校 給 食 共 同 調 理 場 長
高 橋 徹	選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長	児 玉 行 宏	監 査 委 員 事 務 局 長

孫 田 邦 彦 農業委員会事務局長

鈴 木 智 消防主幹

### 事務局職員出席者

松 本 弘 議会事務局長

寒河江 新一 補佐

鈴木 和夫 議事調査係長

高橋 由美 庶務係長

### 議事日程（第3号）

平成24年12月10日 月曜日 午前10時00分開議

日程第 1 市政一般に関する質問

7番 我 妻 昇 議員

2番 梅 津 善 之 議員

### 本日の会議に付した事件

議事日程（第3号）に同じ

## 開 議

○蒲生光男議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、6番、竹田博一議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、宇津木正紀市民課長が欠席のため、鈴木良輔市民窓口主幹兼補佐が出席しておりますので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

### 日程第1 市政一般に関する質問

○蒲生光男議長 日程第1、市政一般に関する質問を7日に引き続き行います。

それでは順次、ご指名いたします。

### 我妻 昇議員の質問

○蒲生光男議長 順位6番、議席番号7番、我妻昇議員。

(7番我妻 昇議員登壇)

○7番 我妻 昇議員 おはようございます。それでは、一般質問をさせていただきます。

ことしこそ暖冬であろうという希望的観測を持っておりましたが、あっさりとそれは崩れてしまい、またもや豪雪を思わせる雪の降りようであります。せめてこの冬は交通事故や除雪、雪おろしでの事故などが起きないことを願いな

がら、一般質問をさせていただきたいと存じます。ご答弁のほどをよろしくお願いいたします。

質問は大きく1点、あやめ公園周辺を市民からも、観光客からも、子供からお年寄りまでみんなに愛される空間にという内容でございます。

ことしの3月議会から観光振興計画、都市再生整備事業についてさまざまな議論をしてまいりました。しかし、今もなお納得できないままではいるのは私だけではないと感じております。

昨年の3月に長井市行財政改革推進委員会から答申を受けた「公共施設の今後の在り方について」を拝見いたしますと、長井市の所有する公共施設は100施設、110棟で、そのうち築25年を経過しているものは58施設あり、そのうち40年を超えるものが16施設で、既に建てかえが必要な状況にあります。10年後にはさらに25の施設が築40年を超えることとなり、全体で4割の建物が築40年を超えることとなります。公共施設の寿命を40年程度とすると、施設の更新時期が今後連続し、財政面で厳しい状況が見込まれますと書かれております。

さらに、以下のような指摘をされております。建設当初には国庫補助金等の有利な施策を活用して建設したために、長井市の負担は少なく抑えられ、維持管理や運営に費用が注がれてきたところであります。しかし、今後、建てかえ事業について活用できる有利な施策は望むことができず、市負担のみで建てかえることは現実的には不可能であることは明白です。また、建設時は右肩上がりの経済状況と人口の増大を背景に目白押しの公共事業として推進してきましたが、今後は人口減少、高齢者人口率の増大、税収入の減少、さらには福祉関係費用の増大が予想され、公共施設の統合や集約は必須であり、市民の理解を得ながら総合的に管理していかなければなりません。将来の人口構成についての予測と長井市の財政規模に適した施設の数や内容を検討し、建てかえの優先順位が高い施設、